

第4回 小中一貫教育懇話会 議事録 概要

- 1 開催日時 平成 25 年 5 月 27 日(月) 19:00～21:10
- 2 開催場所 生駒北小学校多目的室
- 3 テーマ 生駒北小・北中学校における小中一貫校の設置について検討し、懇話会として一定の方向性を出すための会の進め方や取組内容について
- 4 出席者 小柳和喜雄（奈良教育大学教授）、中谷辰幸（生駒北小学校育友会会長）、影林保志（生駒北中学校育友会顧問）、正田文敏（打田・高船保護者代表）、藤堂宏子（ひかりが丘自治会会長）、窪田博明（久保自治会顧問）、十文字良明（生駒北小学校長）、本田善藤（生駒北中学校長）、柳田富恵（生駒市校園長会会長）、富山二郎（生駒北小学校教諭）、

（事務局）峯島教育総務部長、真銅教育総務課長、伊東教育指導課長、藤本教育総務課課長補佐、吉村教育指導課課長補佐、前田教育指導課指導主事

5 開会あいさつ （峯島部長）

6 交代した参加者のあいさつ （打田・高船保護者代表 正田文敏氏）

7 事務局より （伊東課長）

○5月12日開催の「小中一貫教育講演会並びに生駒北小中一貫校に係る保護者説明会」と5月13日の先進校視察についての概要説明

8 意見交流

座長：講演会や説明会についての意見や感想を出してほしい。

参加者：育友会が行ったアンケートで保護者の多くが「もっと講演会や保護者説明会を開いてほしい」と述べていたが、その声をもとに開催されたので、育友会としてうれしかった。次回も多数参加してもらえよう、育友会として会員に働きかける。5月12日は約100名の参加だったが、もっと来てほしかった。小中一貫校に魅力がないから保護者の関心も薄いのか？魅力あるカリキュラムなど市が打ち出せば、保護者の関心が高まるはず。今は「小中一貫教育をする」ということで留まってしまっている。

参加者：教育委員会や学校は、「このようにしたい」、「生駒北小と北中の小中一貫教育はこうなる」といった

踏み込んだ内容を話してほしい。「6・3制は変えない」という去年の秋の市の説明から進展がない。

参加者：気になったのは保護者の受け身な発言だ。「何をしてくれるのか」「市はどうしようと思っているのか」ではなく、「自分の子どもにこういう教育をしてほしいんだ」という思いを市に伝えていくべきだ。また、保護者が不安な気持ちでいるのは、市が「生駒市の教育はこうなる」「こういう教育をしたい」というビジョンを出さないからだ。「小中一貫教育はこの地区に最適な教育です。6・3制をとるので、今と変わりません。」等、小学校や中学校の独自性を尊重するという姿勢は大事だが、市が「生駒市の教育はこうしていく」というビジョンを出さないと保護者や地域が不安になる。生駒北中校区だけが特別な教育、つまり小中一貫教育をするとなると、平等性が失われるという意見もあるようだが、ほかのところと同じようにするべきだという考えは間違っている。生駒北中校区で新しい教育を行った結果、市内すべての学校でそれを行うことになり、生駒市全体の教育力が向上したとなればいいのではないか。

参加者：小中一貫教育は学校教育の質の転換であることがわかった。次代の子どもを導くスキームを作るべきだと思った。

参加者：保護者の生の声を聞いた。講演会や保護者説明会の後で保護者と話す中で感じたことは、まずは学力向上だということである。そして、この地域ならではの教育をしていかねばならないとも思った。

参加者：この地域でできることを示さないといけな。また、具体的なものを示さないと分かりにくい。例を挙げると保護者も小中一貫教育について分かってくれると思う。

参加者：保護者の不安がよく分かった。北中にはバスケット部がない。小学校でミニバスをしていた子が中学生になってもやりたくて、私が北小で教頭をしていたとき体育館を貸したことがあり、非常に喜ばれた。小中一貫校になればこのようなことはなくなるだろう。生駒市のモデル校として、最新のものと伝統とを兼ね備えた教育をしてほしい。

参加者：小中一貫校になれば負担が増えるのではないかと教師は不安である。学力向上の成果はすぐには出ないだろう。しかし、すぐに、そして目に見える形で結果を求められるので教師は不安なのだ。新しいモデル校は6・3制で教育課程はそのままということだが、学力向上を求められているのだから、教師の負担は増えるはず。教師はやり始めたら頑張る。そのための物的・精神的サポートがほしい。

座長：ほかに耳にしていることがあれば教えていただきたい。この地区のこどもたちにとって何がいいのか集約をしたい。

参加者：富雄第三小中学校は特別な教育課程を組んでいる。たとえば5年生や6年生の授業時間は文科省が提示しているのより40時間多い。特別な教育課程やカリキュラムで新しさを出した。市はそれらを変更しないと言うが、新しさを出すにはカリキュラムや教育課程を変更することも必要であろう。

参加者：保護者は「やる気のあるいい先生をそろえてもらわないと小中一貫教育はできない」と言っている。

事務局：教育課程を変更することも可能だと思うが、小柳先生に確認したい。

座長：可能である。教育課程特例校の制度がある。特例措置や特区申請など詳細については文科省に確かめるのが一番だ。

事務局：教育課程は高山地区の事情や地域性に合わせる、という考えを持っており、市教委からはあえてスタンダードなものを提案している。しかし、教育課程を変更してでも取り組みたいという先生の意欲に

対して、市教委はバックアップするつもりだ。

参加者：そうならば初めから「6・3制堅持」など示さないほうがいい。6・3制の枠を作らないほうが、「もう少し魅力あるものがほしいなあ」という保護者の思いに沿うのではないか。

事務局：今と大きく変わることへの不安、打田・高船地区の生徒が中学1年生から入学することへの不安があるので、とりあえず、今の形からスタートしましょうということだ。その後は学校内の話し合いに基づいて、様々な特色ある教育課程が編成されていく可能性がある。

参加者：5月20日に富雄第三小中学校区の自治連合会長だった方と話をした。いくつかの作業部会を作り、教育課題などを学校と地域が練り上げたということだ。懇話会はどこまで議論するのか。ある程度のことを市に出していただき、詳細は作業部会で、ということなのか？これから市はどうしていこうと考えているのか。

事務局：小中一貫校を作るか作らないかを話し合っている段階なので、作ることを前提とした具体案はまだ提示しにくい。

座長：懇話会は方向性を決めるまで、である。設置が決まれば設置検討委員会などが設けられるだろう。今は「このようなことをやってみませんか。」と市が提示している段階だと理解している。では、先進校視察についての御意見や御感想を。

参加者：施設はすばらしかった。老朽化している北小と北中をあのようないい施設にしてほしい。休み時間に小学生と中学生が同じ教室で過ごしていること、中学校の教員が小学校の授業をしていることは新鮮だった。それから、先進校で学んでいる自信が子どもにも教員にもあった。奈良と生駒では小中一貫になった経緯が違う。「奈良を知る勉強をする」というビジョンで奈良市は小中一貫校を作った。奈良市のような考え方で小中一貫を考えたい。少子化がますます進んだとき、上中との統合はあるのか。大阪市では児童数が少ない学校で越境も認めている。ここ高山でも魅力ある学校を作って高山以外からも通学できるようにしてほしい。というのも部活動を維持するには1学年2〜3クラスは必要だから。また、先進的な取り組みをするときにはwebで公開して、打田・高船の子どもたちもその授業が受けられるようになればいいのではないか。

参加者：富雄第三小中学校は、8年生である中学2年が少ない。カリキュラムをつめきらないままスタートしたら、このようなことになってしまうのではないか。

参加者：中学校の先生が小学生を教えるとなると、板書の字を大きくしたり、わかりやすい言葉で説明したりしなければならず、中学校の先生にとってはスキルアップにつながったようだ。先日帝塚山自治連合会の会長だった方と会ったのは、地域として小中一貫校設立に関して何ができるのかを聞いたことから。富雄第三小中学校を立ち上げるとき、富雄中学校に進学させたいと考える保護者が多かったことやマスコミ発表が先行したことなどでかなり反対があったようだが、自治連合会が尽力した。また、行政がビジョンを示し、本気で小中一貫校を設立しようと考えていることを真剣に伝えた。その頃の富雄第三小学校や中学校の状況は今の生駒北小学校や中学校の状況とよく似ている。小中一貫校の良さは分かるが、いじめ等特に問題になるようなことがないのでなかなか自分たちの問題だとはとらえられなかった。さらに、富雄第三中学校という新しい学校では受験や進学に対して不安があったようだ。しかし、自治連合会は保護者よりももっと広い視野で小中一貫教育を考え、「地域にとって小中

一貫教育はいいことだ」と結論を出した。それからは作業部会を作り、地域の思いも生かした学校づくりを進めてもらえるよう力を尽くしたようだ。

参加者：文化の中心である学校をなくしてはならない。このような考え方で今後の方向性を決めたらどうか。

参加者：各階の廊下にスペースがあり、ちょっとした憩いの場だったのが印象に残った。子どもに学力をつけたいなら当然授業時数は増える。基礎でつまずいているのか、発展的な問題に取り組ませたほうがいいのか等、子どものレベルに応じて7時間目などに授業を行うことも考えないといけない。

参加者：先生は自分の専門の教科を教えるべきである。今の北中学校では自分の専門でない教科を教えている先生がいる。小中一貫校になり、中学校の先生が小学校にも教えに行くと、そういったことも解消されると思う。

参加者：以前、壱分小学校では高学年で専科授業を行い、効果があった。理科や算数はその教科を専門にしている中学校の先生に中学校での勉強も視野に入れて教えてもらおうといい。奈良先端大との連携など、子どもたちが夢や希望を持てるようなカリキュラムにし、自分の学校に誇りが持てるようにしたい。

参加者：富雄第三小中学校は一定の成果と落ち着きが出てきたから生徒数が増えたのだと思う。しかし、クラブ活動が成立するのは各学年2～3クラスだからこそであり、今の北小や北中は富雄第三小中学校とは違う。何が何でも反対ではないが、さまざまなことを考慮して進めていただきたい。知り合いに聞くと、小学校文化と中学校文化が違うので初めは会議が多かったらしい。小中合同で会議をし、そのあと小学校と中学校に分かれて会議をしたようだ。最初は負担が増えると小柳先生は言われたが、教師の負担が増えるということを知ってほしい。

参加者：施設がきれいで運動場が広く、うらやましい。新しい施設になるのはプラスだと感じた。奈良先端大との連携ができてないなら、それはどうしてなのかを検証する必要がある。また、9年間ずっと同じ人間関係でつらい思いをしている子がいると聞いている。

座長：市のビジョンが出て、ここをモデル校にして教育を行うことになるかと非常に分かりやすい。過去に北中校区で大事にしてきたことで今できることは何か、また未来に向けて何ができるのかという意見の集約は必要だろう。

参加者：生駒市全体で小中一貫教育をするのではないが、生駒市全体の教育力向上のため、この高山地区で新しい教育に挑む。市としてのビジョンを言ってくれば小中一貫教育を推進するパワーになる。

事務局：小中一貫校にすることが決まればもっと様々なことを話し合うつもりだが、まずは質疑を1つずつ整理し、理解を深めていただきたい。生駒北中校区の話し合いや集会があれば説明に伺いたい。

9 事務連絡（事務局）

○大原学院の視察

○6月5日（水）19:00～21:00、生駒北小学校多目的室で保護者説明会開催。

○6月20日（木）19:00～21:00、生駒北小学校多目的室で第5回懇話会開催予定。

10 閉会あいさつ（峯島部長）